

軟弱地盤改良 前例ない規模



本格工事が開始された沖縄県名護市辺野古沖の大浦湾＝20日午後3時26分

辺野古埋め立て 本格着工

午後2時過ぎ、クレーンでつるされた金属製のくいはゆったりと揺れながら、青く澄んだ大浦湾の海中に沈んでいった。雨が降る中、近くでは多くの作業員が様子を見守っていた。

「マヨネーズ」

工事は埋め立て区域を囲む護岸を造り、土砂を投入する。ネックがマヨネーズに例えられる軟弱地盤の存在だ。

砂を固めたくいを打ち込んで改良する計画で、軟弱地盤は最深部で海面下約90メートルに達するとされ、難しい

短い滑走路に米軍不満

記者団の取材に応じる、沖縄県の玉城デニー知事＝20日午後、沖縄県宜野湾市



作業が見込まれる。埋め立て工事全体の完了は2033年4月ごろの予定だが、順調に進むかどうかは不透明だ。

沖縄県の玉城デニー知事にとって、辺野古移設阻止は最大の公約だ。法廷闘争を繰り返してきたが、今年6月の県議選で玉城氏を支持する勢力が過半数を割り込み、原則的に県議会の同意が必要となる新たな訴訟の提起は困難になった。「辺野古阻止のカードを全て失った。死に体だ」と自民党

県議は話す。

県が大浦湾側の環境保全などに関し要望を示してきた防衛省との協議は、県議選2日後の6月18日、事実上打ち切られた。防衛省関係者は「淡々と進める」と語り、県幹部も「打つ手が

注 米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設先となる名護市辺野古の大浦湾側

で、防衛省が20日、埋め立てに向けた本格工事を始めた。反対する沖縄県を押し切った形だが、海底の軟弱地盤改良は前例のない規模の工事で難航する可能性がある。新基地は滑走路が短く、米軍からは不満も漏れる。専門家は「工事の実現性が疑問視され運用面でも問題があり、合理的でない」と語る。（3面参照）

左の記事を読んで下の問いに答えましょう。

(注)住宅街に囲まれ「世界一危険な米軍基地」と言われる普天間飛行場の危険性除去のため、1999年に辺野古への基地移設が決まった。2019年政府は辺野古の軟弱地盤を認め、設計変更を行った。完成予定は2033年。

1 沖縄県の玉城知事は辺野古移設に反対しています。その理由を書いた次の文の空欄に、本文中から適語を抜き出して入れましょう。

・住宅街にある普天間飛行場の危険性を取り除くため、早ければ2022年ごろに米軍基地を移設する計画であったが、辺野古の軟弱地盤などのため工事が し、経費も2.5倍以上と大幅に増大している。

・辺野古移設を決定した1999年から、今では が大きく変化していて、米軍は部隊の分散化を進めており、辺野古が軍事的に重要ではなくなっている。

・滑走路が普天間に比べて ため、米軍にとって使い勝手が悪い。

ない」と認める。

ただ、軟弱地盤が工事を阻む可能性はある。玉城氏は20日、記者団の取材に「完成する可能性は極めて低い」と断言。国が工事の設計変更を申請する可能性や、工事の長期化に言及し「工期もコストもはつきり説明することができない工事は直ちに中止し、精査し直すべきだ」と語った。

「最悪シナリオ」

日本政府が辺野古移設を閣議決定したのは1999年。中国が海洋進出を強めた2010年代以降とは安全保障環境が大きく異なる。06年に決まった現行の整備計画では、滑走路は普天間の約2700メートルより短い約1800メートルで、使い勝手が悪いとされる。

ある在沖縄米軍幹部は「辺野古は最悪のシナリオだ」と切り捨て、移設後は嘉手納基地（同県嘉手納町など）で、部隊の運用を補完する可能性に言及した。

軍事評論家の前田哲男氏は、中国のミサイル能力向上などを背景に、米軍は部隊の分散化を進めていると指摘。新基地が攻撃対象にされることは明白で「移設計画は軍事的合理性が乏しい」と強調した。

NIEワークシートのこたえ（2024年8月22日公開）

◆ワークシート「辺野古埋め立て軟弱地盤(社会)」
2024.8.21付 朝刊 4面 解答

1 長期化 安全保障環境 短い